

6 学修の成果に係る評価および卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること

6-1 学科・専攻等の名称

	学科名	修業年限	取得単位	取得可能な学位
美術学部	美術学科	4年	124	学士（美術）
大学院	複合芸術研究科	2年	32	修士（美術）
		3年	17	博士（美術）

○学士（美術）

6-2 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

秋田公立美術大学は社会の大きな変動に呼応し、古い概念にとらわれることなく新しい芸術領域の創造に挑戦する大学です。本学の使命は、自然と伝統文化に恵まれた秋田の文化的資源を活用し、芸術のもつ可能性、公共性を探求することを複合的に学びながら、自らの芸術的感性と創造性をいかし、秋田から全国、世界へと、社会に貢献する人材を送り出すことです。

このような本学の理念に基づき、以下の4つの能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に対して、学士（美術）の学位を認定します。

- 1 従来の芸術を理解し、それを新しい芸術として再創造できる能力
- 2 文化の多様性を受け容れ、芸術において異文化と共存できる能力
- 3 グローバルな視野に立ち、国際的な舞台に挑戦できる能力
- 4 芸術の新しい知見によって、地域社会の発展に貢献できる能力

6-3 アセスメント・ポリシー（学修成果の評価方針）

（参照）

https://www.akibi.ac.jp/akibi_cms/assets/uploads/2022/04/assessmentpolicy2022.pdf

6-4 進級要件

3年次に進級するためには、2年次の終了時点で60単位以上（自由科目を除く。）を修得することが必要である。

また、卒業研究を履修するためには、4年次の前期終了時点で100単位以上（自由科目を除く）修得することが必要である。

6-5 専攻選択

- 1 1年次は、現代芸術論1および同2の履修を通じて、5専攻すべての理念を、講義を中心とした授業で学習する。
- 2 原則として現代芸術論1および同2の単位修得後(もしくは修得見込後)、2年次前期から現代芸術演習2科目以上を履修する。
- 3 現代芸術演習の履修には、成績および本学が定めた方針に基づき選抜を行う。
- 4 現代芸術演習および専攻ごとの受入人数は、年度によって学生数が異なるため、以下の人数を基準に調整する。現代芸術演習は、1人の学生が2つ以上の授業を履修するため、それぞれの専攻の受入人数の2倍の人数がおおよそその履修定員となる。
○専攻ごとの受入人数の基準(増減する場合がある。)
 - ・アーツ&ルーツ専攻 10人
 - ・ビジュアルアーツ専攻 25人
 - ・ものづくりデザイン専攻 25人
 - ・コミュニケーションデザイン専攻 30人
 - ・景観デザイン専攻 10人
- 5 最終的な所属専攻は、現代芸術演習の履修とは別個に、各専攻から選択する。
- 6 最終的な所属専攻は、成績および本学が定めた方針に基づき決定する。
- 7 現代芸術演習は、選択によって履修が決定した以外の科目を次年度以降に履修することはできない。

6-6 卒業要件

本学学科を卒業するためには、4年以上(3年次編入生は2年以上)在学し、かつ、卒業必要単位数一覧表に定める単位を修得することが必要である。

○修士（美術）・博士（美術）

6-7 ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科は、大学の理念に基づき以下の能力を備え、かつ所定の単位を修得した学生に対して、修士（美術）、博士（美術）の学位を認定します。

【修士課程】

- 1 異なる分野を複合させながら、既存の枠にとらわれない新しい芸術を探求・創造する能力
- 2 現代社会の動向や地域特性をとらえ、アート・デザイン・芸術学の方法論を通じて問題解決へつなげ、具体的な提案ができる能力
- 3 グローバルな視野をもちながら、アート・デザイン・芸術学の研究や実践を評価・検証し、その成果を広く社会と連携し情報発信する能力

【博士課程】

- 1 複合の視点からモノ・コトを要素単位で分析、解析し、現代芸術に限らず、社会的な課題等に関しても事象の本質を捉える能力
- 2 表現と理論の双方から多面的にモノ・コトを捉えながら、発想の転換や理論の応用をもとに、現代芸術及び社会に新しい視点を提示できる能力
- 3 複合の視点からの学際的な研究に取り組み、その成果を社会に発信・適用していくことで、人々を巻き込みながら現代芸術や地域を牽引していく能力

6-8 アセスメント・ポリシー（学修成果の評価方針）

単位認定および成績の評価

1 単位認定

単位修得の認定は、定期試験、平常の成績、レポート、作品、実技、授業への姿勢等により行います。単位認定・評価方法については、シラバスの評価方法を参照してください。

評価・単位認定のためレポート・制作物の提出期限は厳守してください。事情により追試験や提出期限の延長を行うことがあります。

原則、各科目の授業実施時間の3分の2以上出席しなければ、評価の対象になりません。

2 成績の評価（GPA制）

教育の質を確保する観点から、国際的に通用し、公平性・透明性に優れた基準である Grade Point Average（評定平均値。以下「GPA」とする。）制度を全学的に導入します。

GPAは成績を数値化して成績を評価するため、定期試験等の成績評価を秀～不可、および不合格で表示し、「不可」と「不合格」に単位を与えないものとします。

成績は、「秀」「優」「良」「可」および「不可」をもって表し、「秀」「優」「良」「可」を合格とします。「秀」は100点～90点、「優」は89点～80点、「良」は79点～70点、「可」は69点～60点、「不可」は60点未満を表します。

なお、GPAの計算方法と各授業科目の成績に基づくGP（グレードポイント）は次のとおりです。

○各授業科目の成績に基づくGP（グレードポイント）

評価	成績	GP(グレードポイント)
秀	90点以上	4.0
優	80～89点	3.0
良	70～79点	2.0
可	60～69点	1.0
不可 (不合格)	60点未満	0
不合格	受験資格の喪失 (出席数不足等)	0
合格	大学で認めた評価	GP対象外

○GPAの計算方法

$GPA = (GP \times \text{履修登録した当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修総単位数}$

GPAの対象となる科目は、原則として、次の①②③以外の授業科目とします。

- ①成績評点を付さず「合」・「否」等で評価する科目
- ②他の大学院で修得した単位認定科目
- ③本学入学前に修得した単位認定科目

出席不足による不合格のGPは0であり、科目自体はGPAにカウントされます。

6-9 修了要件

【修士課程】

修士課程を修了するためには、2年以上（入学前の既修得単位を勘案した在学期間短縮ができる場合は1年以上）在学し、所定の授業科目を修得し、および別に定めるところにより32単位以上の単位を修得し、かつ、必要な研究指導をうけた上、修士論文（3万字以上）又は修士制作および修士制作報告書（5,000字以上）の審査および試験に合格することが必要である。

【博士課程】

博士課程を修了するためには、3年以上在学し、所定の授業科目を修得し、および別に定めるところにより17単位以上の単位を修得し、かつ、必要な研究指導をうけた上、1）博士論文（12万字以上）又は2）博士論文（4万字以上）および制作・活動（博士論文と同等程度の成果物又は複合芸術としての活動記録）の審査および試験に合格することが必要である。
1）で修了する場合、査読付き論文3本以上（内、1本以上は学外研究機関）を必要とする。
2）で修了する場合、査読付き論文1本以上と作品発表もしくは複合芸術としての活動（海外における発表もしくは活動を含むことが望ましい）を必要とする。